

Sawada Kyoichi: From Home to Battle Zone

澤田教一 故郷と戦場



澤田教一、ビンディン省ロクチュアン、1965年 Sawada Kyoichi / Getty Images

2017年9月9日|土|－12月25日|月|

開館時間：[9・10月] 10:00－17:00 [11・12月] 10:00－16:30 *ご入館は閉館の30分前まで 休館日：水曜日

入館料：大人800(700)円、高・大学生400(300)円、中学生以下無料 * ()内は20名様以上の団体料金 主催：IZU PHOTO MUSEUM 企画協力：青森県立美術館

IZU PHOTO MUSEUM

Sawada Kyoichi:

From Home to Battle Zone

澤田教一 故郷と戦場

2017年9月9日|土| - 12月25日|月|

開館時間: [9・10月] 10:00-17:00 [11・12月] 10:00-16:30

休館日: 水曜日

主催: IZU PHOTO MUSEUM

企画協力: 青森県立美術館

機材協力: 株式会社DNPフォトイメージングジャパン

学術協力: 立教大学・生井英考研究室

1936年に青森市に生まれた澤田教一は、米軍三沢基地での勤務を経て、1965年に戦火の絶えないインドシナ半島に赴きました。ベトナム戦争が拡大の一途にあった時期に最前線での撮影を続けた澤田は、34歳で銃弾に倒れるまでの約5年間に、数々の傑作を世に送り出し賞を受賞します。ピューリッツァー賞受賞作に含まれる《安全への逃避》では、戦闘で故郷を追われながらも、必死に生き抜こうとするベトナムの人々の姿を捉え、世界中に戦場における過酷な現実を突きつけました。

本展では未発表のカットを含む写真や戦地から送られた電送写真原稿など約300点を展示いたします。写真に写し出された故郷と戦場、そこに交錯する生と死を通じて、澤田教一が身を賭して伝えようとしたベトナム戦争に迫ります。「アメリカの戦争」について考えるよい機会となれば、幸いです。

澤田教一 略歴

- 1936年 青森県青森市に生まれる。
- 1954年 青森県立青森高等学校卒業。
- 1955年 米軍三沢基地内のカメラ店で働きながら、本格的に写真を撮り始める。
- 1961年 プロのカメラマンを目指し上京。
同年12月UPI通信社東京支局写真部に入社。
- 1965年 UPIサイゴン支局にスタッフカメラマンとして赴任。
9月、代表作となる《安全への逃避》を撮影。
この写真で12月、第9回世界報道写真コンテスト第1位を受賞。
- 1966年 《安全への逃避》を含む一連のベトナム戦争の写真でピューリッツァー賞を受賞。
《泥まみれの死》、《敵をつれて》が、第10回世界報道写真コンテストで第1位、第2位を受賞。
ベトナム戦争の写真でU.S.カメラ賞を受賞。
- 1968年 2月、テト攻勢下のフエを撮影。
9月、UPI香港支局写真部長として転勤。
- 1970年 UPIサイゴン支局に再び赴任。
5月、カンボジアでUPIブノンベン支局長のロバート・ミラー記者と共に取材に向かう途中、共産主義勢力の兵士に捕まり、8時間あまり拘束されるが無事生還。
10月、カンボジア取材中、ブノンベン近郊で銃殺され、34歳で死亡。

カンボジアを取材した一連の写真により、1971年のロバート・キャパ賞を受賞。

サワダが伝えた「アメリカの戦争」



澤田教一、1966年

澤田教一の生涯の活動を年代にしたがって、撮影地を中心に、青森、ベトナム、カンボジアと大きく3つのパートに分けて紹介します。
写真作品約200点・資料約100点（電送写真原稿、ポートレート写真、手帖、書簡ほか）を展示します。

青森・三沢 1955-1961年

米軍基地からベトナム戦争の最前線へ

青森市寺町（現：本町）に生まれ、青森県立青森高等学校を卒業。青森市の写真家・小島一郎が経営する写真機店で働き始めてから約半年後、同店系列の米軍三沢基地内にあるカメラ店に転職。その頃からアマチュアカメラマンとして熱心に写真を撮り始める。最新のカメラやフィルムを商う職業柄、当時としては珍しいカラーフィルムを入手し、県内の風景を頻繁にカラーで撮影していた。後の活動に多大な影響を及ぼした三沢時代に撮られた風景写真の中には、大国アメリカと三沢という極東アジアの一地方の風景が、強いコントラストをなして交互に現れ、アメリカへの憧憬と同時に、二つの風景を隔てる大きな溝もまた写し出されている。



米軍三沢基地のカメラ店での澤田教一と妻・サタ、1958年



澤田教一、米軍三沢基地内、1955-61年

ベトナム 1965-1968年

戦場カメラマン・サワダの誕生

1961年に上京した澤田はUPI通信社東京支局に職を得、1965年には、念願のUPI通信社サイゴン支局のスタッフカメラマンとして、本格的にベトナムで取材を始める。ベトナムに渡ったその年に撮影した、《安全への逃避》（下の画像中央）によって高い評価を得た澤田は、翌年には《泥まみれの死》、《敵をつれて》などの傑作を立て続けに世に送り出し、瞬く間に報道写真界の頂点に上りつめる。当時ベトナムの戦地では、世界中の名だたるカメラマンたちがスクープをものにしようと鎬を削っていた。《安全への逃避》によってピューリッツァー賞を受賞した澤田は、自信とプレッシャーの中で、こうしたライバルカメラマンとの戦いをエスカレートさせていくことになる。主要な作品やテト攻勢下のフエなど前線での写真と合わせて、山岳民族や解放戦線の兵士たちなど、様々な状況で戦時を生きるベトナムの人々の姿を撮影した写真を展示。泥沼化していくベトナム戦争の軌跡を辿る。

「ほんとうのものを知りたい、つかみたい」



澤田教一、ビンディン省ロクチュアン、1965年 Sawada Kyoichi / Getty Images

カンボジア 1967-1970年

最期の地での足跡

ベトナム戦争が泥沼化する中で、1970年米軍は、北ベトナムに打撃を与えるべく、その支援ルートとなっていたカンボジアに侵攻。しだいに戦線はカンボジアへと拡大する。それにともなって、澤田の目もベトナムからカンボジアへと向けられるようになる。カンボジアのトンレバットで内戦に巻き込まれて逃げ惑う人々を撮った一連の写真は、死後、ロバート・キャパ賞を受賞した。またカンボジアについては、休暇で訪れたアンコールワット遺跡群のカラー写真も残っている。1970年10月28日、澤田はプノンペンに赴任してきたばかりの支局長の要請で、二人で車で取材に出かけた道中、プノンペンから34キロ離れた国道2号線の脇で銃殺された。最期の地ともなったカンボジアでの足跡を辿る。



澤田教一、カンボジア、1967-70年

初期作品等未発表写真多数

本展ではサタ夫人所蔵のオリジナルフィルム約2万3000カットをはじめ膨大な資料を調査しました。そのなかから未公開カットを多数含めて新たにプリントしました。青森でのアマチュア時代に撮った米軍三沢基地内やその周辺の風景写真は、華やかな基地内の生活と青森との風景の間にあるギャップを写し出し、戦場カメラマン・サワダを生んだ土壌について、多くのことを物語っています。またベトナムやカンボジアでの未公開写真からは、同行した米軍の戦いぶりだけでなく、彼らが捕えた解放戦線の容疑者や兵士たちが見せる表情を通じて、東アジアにおける「アメリカの戦争」に翻弄される人々の姿を伝えることに対する澤田の強い関心が浮かび上がってきます。



澤田教一、米軍三沢基地正門前、1955-61年

テト攻勢下のフエ

1968年のテト攻勢の際に、誰よりも早くフエに入り前線で撮影した攻防戦のシリーズを、澤田の最高傑作と呼ぶ人は少なくありません。戦闘の勃発から収束まで、約1か月にわたるフエの取材を大型写真と連続カットのパネル写真で展示。戦場写真の迫力と緊張感を伝えます。展示用のインクジェットプリント制作にあたっては、写真家の北島敬三氏が監修しました。

「そこにいれば、いい写真は撮れる」



澤田教一、フエ、1968年

遺されたネガをシークエンスで

澤田が遺したネガは、UPIなどで配信用に使用されたため、バラバラな状態で保管されていました。本展では、調査に基づきそれらをつなぎ合わせ、連続したシークエンスとして見せることで、戦場という切迫した場でのカメラマンの身体や判断のあり方、撮影の方法などを検証します。



澤田教一、フエ、1968年

関連イベント

●トークイベント「澤田教一が伝えた『アメリカの戦争』」

生井英考(立教大学教授)×高橋しげみ(青森県立美術館学芸主幹)

×小原真史(IZU PHOTO MUSEUM研究員)

日時:9月16日(土) 15:30-16:45

会場:クレマチスの丘ホール(IZU PHOTO MUSEUMより徒歩2分)

当日有効の入館券が必要です。

参加方法:お電話にてお申し込み下さい。

TEL:055-989-8780(水曜休)

●学芸員によるギャラリートーク

日時:会期中の第2・第4土曜日 各14:15より(約30分間)

会場:IZU PHOTO MUSEUM

料金:当日有効の入館券のみ必要です。

申し込み不要(当日美術館受付カウンター前にお集まりください。)

関連書籍

『澤田教一 故郷と戦場』

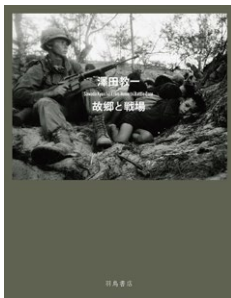
(羽鳥書店、2016年)

本体価格 4,500円+税

A4判変型 / 並製 / 296頁(カラー240頁)

寄稿:

生井英考、石川文洋、高橋しげみほか



漫画家・西島大介の漫画で、ベトナム戦争を わかりやすく解説

ベトナム戦争を題材にしたコミック『ディエンビエンフー』(小学館)の西島大介が描き下ろした漫画「澤田教一と行くベトナム戦争史」のリーフレット(青森県立美術館制作)を会場で無料配布します。限定1500部。

基本情報

2017年9月9日(土)～12月25日(月)

開館時間: [9・10月] 10:00-17:00 [11・12月] 10:00-16:30

(ご入館は閉館30分前まで)

休館日: 水曜日

入館料: 大人800(700)円、高・大学生400(300)円、中学生以下無料

* () 内は20名様以上の団体料金

クレマチスの丘 同時期開催の展覧会情報

●ヴァンジ彫刻庭園美術館

開館15周年記念展「生命の樹」

参加作家: Rosilene Luduvico、小林孝亘、佐々木愛、杉戸洋、スズキコージ、村瀬恭子、持塚三樹、華雪、大矢真梨子、宮崎学、本橋成一、イクムラレイコ、棚田康司、戸谷成雄、Giuliano Vangi

4月22日(土)～11月30日(木)

「日高理恵子 空と樹と」

4月22日(土)～11月30日(木)

●ベルナール・ビュフェ美術館

「ベルナール・ビュフェ再考 代表作から見るビュフェの半世紀」

前期: 2017年3月18日(土)～2018年1月16日(火)

後期: 2018年1月18日(木)～2018年9月4日(火)

「森—いのちのかたち」

4月22日(土)～10月31日(火)

参加作家: いせひでこ、鈴木まもる、杉山明博

お問い合わせ

企画担当: 小原真史(kohara@clematis-no-oka.co.jp)

國田佳恵(kunita@clematis-no-oka.co.jp)

広報担当: 岸美智代(kishi@clematis-no-oka.co.jp)

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘347-1

Tel.055-989-8780 Fax.055-989-8783 www.izuphoto-museum.jp

IZU PHOTO MUSEUM

アクセス

●お車の場合

東京方面より: 東名・裾野I.C.よりR246経由、沼津方面へ10km

名古屋方面より: 新東名・長泉沼津I.C.または東名・沼津I.C.より伊豆縦貫道(東駿河湾環状道路/無料区間)へ、長泉I.C. 出口R246右折、5km

●電車の場合

JR東海道線「三島駅」下車、北口(新幹線口)／3番線乗り場発、無料シャトルバスあり

無料シャトルバス

[三島駅 ↔ クレマチスの丘] 時刻表(所要時間約25分)

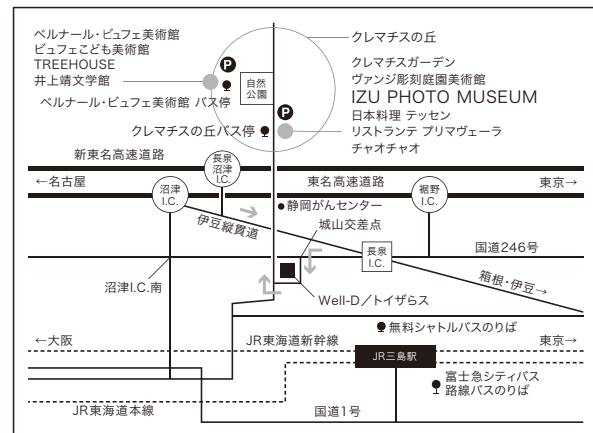
○行き[三島駅]北口(新幹線口)発

時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
分	平日	40	40	40	00	00	00	00	00
	土日・祝日	40	40	40	40	40	40	40	

○帰り[クレマチスの丘]発

時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
分	平日	15	15	15	35	35	35	35	20*
	土日・祝日	15	15	15	15	15	15	20	

*は御殿場線「裾野駅」経由のため所要時間は約45分です。



【広報用画像】

本プレスリリース内でご紹介しましたイメージについて画像（デジタルデータのみ）貸出しをしております。
ご希望の場合は必要事項をご記入の上FAX またはEメールにてお申し込みください。
ご希望の画像番号にチェックをお入れください。



澤田教一、1966年

①

☐

澤田教一、米軍三沢基地内、1955-61年

②

☐

澤田教一、ダナンの南16km、1967年

③

☐

澤田教一、ビンディン省ロクチュアン、1965年 Sawada Kyoichi / Getty Images

④

☐

■ 貴媒体名

■ 掲載号

■ 発売日／放映日

年

月

日

■ 貴社名

■ ご担当者様

■ TEL

■ FAX

■ E-MAIL

@

■ ご住所

■ 資料お届け期限

年

月

日

までにご希望

広報用画像貸し出し条件

1. 画像は、本展紹介以外の目的で使用しないでください。
2. 画像データを第三者に渡すことはできません。使用后、データは消去してください。
3. 作品画像は全国で使用してください。部分画像やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。
4. 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記入ください。
5. 掲載、放送の際には事前確認のため、ゲラ、掲載誌（紙）または映像のご提供をお願いいたします。
6. 掲載誌（紙）は、下記広報担当あてに一部ご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。

IZU PHOTO MUSEUM 広報担当：岸

E-mail : kishi@clematis-no-oka.co.jp

FAX : 055-989-8783

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 347-1 TEL.055-989-8780